



「演奏を聴いた人が幸せな気分になれるように」とピアノを弾く木原さん

釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

□中□

音楽一家に育つ

「音楽の色とか温度を伝えたい」今年、念願の字通り音を楽しんでいた釧路市民文化会館。今も弾けるといふ喜びを大事にしている。1993年に音楽の名門、桐朋学園大学音楽学部の卒業。その年から、釧路市に活動の拠点を置き、チェリストやサクソフォーンが下がらなかつた」と振り返る。

ピアノ

木原奈津子さん(38)

(釧路市)

色や温度、伝えたい 念願のリサイタルも成功

活動できる」とし、子育てが落ち着いてからは、オーケストラ・ブルックナーオーケストラとの競演を果たすなど、数々の演奏会に出演、種々の音楽賞を受賞した。

鍵盤に気持ちを

舞台上上げれば、日常から非日常へスイッチが入る。集中力を研ぎ澄まし「家族も普段とは違ふ」といふほど、ピアノリストの顔になる。「(舞台に)出るまでは内臓が飛び出そうなほど緊張する」ため、演奏前には、背中を手形が付くほど思いっきりたたいてもらつたという。演奏中は聴衆に「自分の楽しさや、音がきれいな色をしているとか温かい音だとかが伝われば」と気持ちを込めて鍵盤をたたく。

が、結婚、出産を期に数年間活動をセーブ。「育児をしながらの練習は難しかったが、子供がいると、妻も母もなすピアノニストはほほ笑んでい